20240407　朝礼拝　ルカによる福音書１章1～4節

「よく分かって頂きたい」

振り返ってみますと、少なくとも私の過ごす毎日は、「よく分かって頂きたい」ことが結構多いと思います。まずは、子ども達に対して、「どうか、部屋を片付けて欲しい。何故なら、すぐモノが無くなって困るのは、あなた達であり、また、一緒に探すことになる我々なのだから。よく分かって頂きたい」とか。まぁ、未だに全然分かってもらえませんが。また、パソコンや機械に対して。「どうか、機嫌よく仕事をしてもらいたい。昨日できたことが、今日できない理由があるなら、ちゃんと理解できる言葉で説明して欲しい。そのあたり、パソコンや機械を作った人を含め、よく分かって頂きたい」。機械は間違えないというのは嘘ですね。機械は人間が作ったものです。人間が作ったものは、必ず不具合があります。そして、不具合があるなら、あるで、もっと分かり易い言葉で解決策を教えて欲しいものです。他にも行政に対して、お店に対して、住民や消費者の立場から「よく分かって頂きたい」と思うことは多々あります。「もうちょっと、そこは何とかならんのか」と。しかし、あまりに「よく分かって頂きたい」と一方的に主張するのは、自分勝手が過ぎるという思いもあります。先方にも先方の事情があるのだから、そこはお互い配慮し合わないと、という感じですね。行政やお店も、そのお立場なりに、住民や消費者である私たちに対して、「よく分かって頂きたい」と思っていることも大いにあるでしょう。事実、そうやってお互いに理解し、譲り合いながら、この社会は成り立っているのだと思います。

だから、「よく分かって頂きたい」という発信は、とても圧力が強いと言えます。慎ましく奥ゆかしい、自己主張を控える性格が好まれるところにあって、「よく分かって頂きたい」と訴え出るのは、勇気のいることですし、少なからず衝突があることも覚悟しないといけません。ただ、自分の

持っている願いや祈りが、本当に正しいと確信できるなら、時には「よく分かって頂きたい」と言ってみるのも、大切なのだと思います。配慮の上手な私たちには、なかなか難しいことですけどね。でも、宣教や伝道という営みは、まさに「よく分かって頂きたい」という願いを力強く示していくことに他なりません。

今日の聖書箇所は、ルカによる福音書の冒頭の部分になります。新共同訳聖書では「献呈の言葉」という小見出しが付いています。そして、文中には「テオフィロさま」という位の高そうな人物が出てきます。福音書記者であったルカは、主イエス・キリストの出来事について、すでに福音書執筆の機運が高まっていることを感じつつ、自らも福音書を書くことを決意しました。そして、自分の書いた福音書を「テオフィロ」と呼ばれる人物に捧げることを計画したのです。この「テオフィロ」という人。実は、どこの誰なのか、全く詳細不明な人物でありまして、この「テオフィロ」という人物について、ルカによる福音書が「献呈された福音書」という体裁を整えるためだけに用いた架空の人物であるという解釈すらあります。ただ、おそらくは、この「テオフィロ」という人は、少なくとも実在しており、異邦人でありながらキリスト教を信じた、異邦人キリスト者における有力者であったのではないか、と考えられます。ルカによる福音書は、他の福音書と比較して、明らかに異邦人を意識して書かれていることが特徴となっています。福音書記者であるルカは、自分の書いた「異邦人のための福音書」を、異邦人の有力者であるテオフィロさまに献呈することで、異邦人世界における主の福音の広がりを願ったのではないか、と推察されます。神様やキリストを知らない世界に対して、「よく分かって頂きたい」という言葉を添えて、ルカは自分の福音書を書いて贈った。それは、まるで、ここ日本で神様を知り、主イエス・キリストを受け入れた私たちのようであり、キリスト教の素晴らしさと喜びを周りに伝えようとする、私たちの宣教の姿と大いに重なるものであります。

聖書を読む時。私たちは、当然のように「聖書から教えを頂く」という感覚だと思います。でも、考えてみますと、私たちの手元に「聖書がある」、そのこと自体がとても大きな奇跡だと言えるでしょう。ここに聖書があるということは、私たちの信仰の大先輩たちが、大きな苦労と試練とを乗り越えて、神様と共に実現してくださった大成功だということです。もちろん、私たちは「聖書から教えを頂く」小さな存在に過ぎません。けれど、もしかしたら、私たちももうちょっと頑張れば、この大切な信仰を誰かに伝えることができるかも知れない。諦めかけた信仰の継承を、諦めなくても良いかも知れない。今日の聖書箇所を書いたルカさんも、決して、最初から自分の書いた福音書が「聖書として海を渡る」とか「日本という異邦の国で読まれる」とか、そんなことを夢にも思っていなかったでしょう。聖書の登場人物の気持ちに寄り添うことがあるように、福音書記者の気持ちに寄り添って考えてみることも大切です。トマスによる福音書、ユダによる福音書などなど実際に日の目を見なかった他の記者による福音書も多くあります。そんな中で、ルカさんが訴えた「よく分かっていただきたいのであります」という言葉と共に、この「ルカによる福音者」は海を越え、時代を超えて、今、私たちの手元にある。そして、「うん、よく分かるよ、イエス様って素晴らしいよね、有り難いよね」と告白する私たちがいる。それって、今はもう天国の古参の住人ではありますが、福音書を書いたルカさんにとって、非常に大きな成功体験だと思います。疑ってしまうような嬉しい成功体験です。また、その成功体験は、同時に、キリスト教全体にとっての成功体験でもあります。私たちが、当たり前のように触れて、読んで、教えを頂いている、この聖書や、そこに収録されている福音書などの物語は、現代に至るまで、主の教えが生き続け、キリスト教が世界に影響を与え続けてきた証拠です。私たちは、神様とルカさんら聖書の記述者たちが、逆境に飲み込まれることなく勝ち得た、大成功と大勝利の、その揺るぎない証拠を日々手に取って、期待と希望の祈りを捧げているのです。

という風に、今日のルカによる福音書や、この聖書自体を捉えてみますと、ちょっとだけ励まされませんか？　イエス様の御言葉や、奇跡や、そして復活について、上手く説明をしたり、理解を促したりはできなくても、でも、少なくとも、今日この日まで、私のところまで、その宣教の業は大成功してきたのです。「主の復活の力を知る」という、理屈では証明し切れないイースターの恵みについて、少なくとも、ここに集う私たちにとっては真実であり、救いであることを私たちは知っています。私たちのところまでは、その確信が届いている。成功している。であれば、この先についても絶望する必要はないでしょう。期待して生きて良いと思います。

先週のイースター礼拝でも引用した神学者カール・バルトの言葉を、もう一度紹介します。「教会が担う宣教の不幸、苦境、言葉の混乱、無力さ、見渡す限りの不純な教えの海…。しかし、人間の失敗を権威ある方法で生かし用いる神の成功、われわれがしくじることを神は良くしてくださる」。この言葉の確たる証拠が、私たちの持っている聖書です。かつての信仰者たちが失敗をしたり、間違いを犯したりしても、神様が良くしてくださった。成功へと導いてくださった。だから、ここに聖書がある。御言葉が届いている。そして、それを信じる私たちがいる。だから、私たちも失敗したり、心折れそうになったりするかも知れませんが、今日の聖書箇所にあるルカさんのように「よく分かって頂きたい」と言い続ける者でありたいと願います。お祈りを致します。

神様。今日も私たちを礼拝に招いてくださり、感謝致します。ここに礼拝堂があること、ここに聖書があること、ここに幼稚園があること、ここに私たちがいること。そのどれもが当たり前ではなく、あなたと、あなたと共に歩んできた信仰の先達による大成功の結果であると言えます。私たちは、その奇跡のような空間にいて、このように祈りを捧げ、賛美する幸いを得ています。あなたには、世界を導く力があります。御言葉を広げ、それを信じる者を救う力があります。どうか、ここに集う私たちが、力ある神様を信じて、期待と喜びを感じつつ、隣人を愛し、御言葉を宣べ伝えていくことができますように。励まし、常にお支えください。主の御復活の喜び、主の体である教会に連なる恵みを、わずかでも伝える者として、どうか私たちを用いてください。このお祈りを復活の主であるイエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。

4 月誕生者の祝福祈祷

聖書：イザヤ書 46 章 3〜4 節

あなたたちは生まれた時から負われ／胎を出た時から担われてきた。同じように、わたしはあなたたちの老いる日まで／白髪になるまで、背負って行こう。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す。

神様。

暖かい風を感じ、花々の美しさを感じるこの春のひと時、私たちは４月にお生まれになった方々を憶えて祈りを合わせています。あなたは、私たちが生まれる前から、私たちの名を呼び、その人生のいかなる時も、共に歩み、必要な癒しと慰めをいつもお与えくださいました。そして、これから始まる新しい日々においても、あなたのお守りの内に歩んで行ける幸いを感謝致します。４月に生まれた尊い信仰の友人たちの上に、どうかあなたからの豊かな恵みと祝福をお与えください。また、人は独りで生きるのではなく、多くの人たちに支えられ、助けられる中で、その人生を全うしてゆきます。どうか、４月の生まれの方々の周りにいらっしゃるご家族、ご友人をも、あなたが守り導いていてください。あなたの大いなる愛が、すべての人を包み、全き平安で満たされることができますように。

この祈りを、我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。